2024年8月14日(水)　日刊木材新聞掲載

「エネルギーの森構想」実現へ実証本格化

紀伊半島で早生樹や未利用広葉樹の循環目指す

バイオマスパワーテクノロジーズ

EFポリマー添加のセンダン苗木（生育状況比較検討）

バイオマスパワーテクノロジーズ（BPT、三重県松阪市、北角強社長）は、センダンなど早生樹や未利用広葉樹の燃料活用に向けた紀伊半島での実証事業を本格的に開始した。エネルギーと林業の両事業を融合させ、地域内で資源循環を行う「エネルギーの森構想」の実現を目指す。

今回の取り組みは、NEDOが進める「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業／新たな燃料ポテンシャル（早生樹等）を開拓・利用可能とするエネルギーの森実証事業」として採択された「紀伊半島エリア各地でのセンダン・ヤナギ類・ナラ類・カシ類等の育苗～植林～搬出実証」に基づくもの。木質バイオマス発電所の燃料となる原木の安定供給に向けて、早生樹や未利用広葉樹を対象に、地域の種苗事業者と連携しながら事業性や合理的な搬出方法などを検証し、紀伊半島エリアにおける持続可能な森林事業モデルの構築を目指す。

実証事業では、BPTグループで所有または施業受託している山林約4000㌶から三重・和歌山・奈良各県内の適地を選定し、実証試験（短期・通年で高品質かつニーズに合致した多種の苗生産、気候や立地に合致した樹種選定、伐採・搬出コストの低減など）を進めていく。また、農業分野の先進技術である「EFポリマー」を苗木生産や植林・育林現場で適用し、苗木生産の安定化や早生樹の生長促進、灌水間隔の低減、下刈り回数の削減などの実証を進めていく方針だ。